



43

「感」

僕は日常の中で、ちょっとした誤植を見つけることがよくある。

一番古い記憶は、小学生の頃に読んだサッカー雑誌の記事だ。注目選手として紹介されていたドイツ代表のクローゼに、なぜかブラジル国旗がついていた。見た瞬間、強烈な違和感を覚え、すぐ横にいた友達に報告した。しかし、友達はまだあまりピンときていない様子で、カントリーマームをほおばっていた。

何度もチェックが入っていきそうなCDの歌詞カードでさえ、案外ミスを見つけることがある。明らかな誤字脱字もあれば、「Y o o !」と表記されているのにどう聴いたって「Y e a h !」と歌われている、といったニュアンスのズレまで様々だ。ちなみにこの曲は厄介なことに、カラオケにまで間違ったまま反映されており、原曲通りに歌った僕の方が「変なアレンジを加えた人」のように見られてしまう現象が起こり、もどかしい思いをした。

先日もテレビの生放送をなんとなく観ていて、「あ」と間違いに気がついた。とくに訂正もされず、僕自身たいして気にもとめなかったが、忘れかけた頃によくテロップで修正が入った。特技と呼べるほどのものではないが、昔からこういう「間違い探しアンテナ」が、無意識のうちに作動してしまう。

そんな自分に少し戸惑うこともある。人のいいところを探して生きていたいと思っているのに、どうも間違いばかりに目が向いてしまうのではないかと。

けれど、その敏感さこそが僕の根っこなのだと思う。

人が笑って一蹴してしまうようなことを、いまだに信じている自分なのだから。

間違いに気づけるアンテナは、きっと同じ感度で、小さな善意や面白さをも捉えられるはずだ。来年は、このアンテナを「いいところ探し」の方へもっと伸ばして、日常に隠れた優しさを見逃さないようにしたい。そして、相変わらずときどき見つけるであろう「まちがい」も、緊張を緩めてくれるスパイスのように楽しみながら、日々の彩りに変えていけたらと思う。

今年一年、読んでくださったみなさんありがとうございます。来年もよろしくお願いします。